

(様式第10)

岡大病総第 99 号
令和 2 年 10 月 1 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人岡山大学長
横 野 博

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目 1 番 1 号
氏 名	国立大学法人 岡山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岡山大学病院

3 所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目 5 番 1 号	電話(086)223-7151
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	② 消化器内科
5 神経内科	6 血液内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	③ 循環器内科
	7 内分泌内科
	4 腎臓内科
	8 代謝内科
	11 リウマチ科
診療実績	
呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科及びリウマチ科で提供される医療については内科において提供している。また、神経内科で提供される医療については、脳神経内科において提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	☒ 6心臓血管外科	7内分泌外科	☒ 8小児外科
診療実績 呼吸器外科、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療については外科において提供している。 また、消化器外科で提供される医療については消化管外科及び肝・胆・膵外科において提供している。			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

☒ 1精神科	☒ 2小児科	☒ 3整形外科	☒ 4脳神経外科	☒ 5皮膚科	☒ 6泌尿器科	☒ 7産婦人科
8産科	9婦人科	☒ 10眼科	☒ 11耳鼻咽喉科	☒ 12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		☒ 15麻酔科	☒ 16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
☒ 1小児歯科 ☒ 2矯正歯科 ☒ 3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 脳神経内科	2 消化管外科	3 肝・胆・膵外科	4 形成外科	5 小児神経科
6 病理診断科	7 リハビリテーション科	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21				

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
34床	2床	床	床	817床	853床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	307人	459人	614.9人	看 護 補 助 者	47人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	95人	183人	172.4人	理 学 療 法 士	26人	臨床検査技師	69人
薬 剤 師	70人	0人	70人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	29人	1人	29.7人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1007人	22人	1013.4人	臨 床 工 学 士	25人	医療社会事業従事者	3人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	45人
歯科衛生士	15人	0人	15人	歯 科 技 工 士	8人	事 務 職 員	399人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	55人	その他の職員	25人

注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	46人	眼 科 専 門 医	4人
外 科 専 門 医	25人	耳鼻咽喉科専門医	4人
精 神 科 専 門 医	11人	放射線科専門医	13人
小 児 科 専 門 医	27人	脳神経外科専門医	6人
皮 膚 科 専 門 医	4人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	11人	麻 酔 科 専 門 医	20人
産婦人科専門医	9人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	205人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (金澤 右) 任命年月日 平成29年4月1日

医療事故防止委員会委員長	平成29年4月1日～令和元年5月31日
医療事故防止委員会委員	平成16年4月1日～令和元年5月31日
医療安全管理委員会委員長	令和元年6月1日～現在
医療安全管理委員会委員	令和元年6月1日～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	600.7人	15.6人	616.3人
1日当たり平均外来患者数	1898.9人	684.1人	2583.0人
1日当たり平均調剤数	1058.4剤		
必要医師数	170人		
必要歯科医師数	37人		
必要薬剤師数	21人		
必要（准）看護師数	396人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	m ² 1,161.6	鉄筋コンクリート	病 床 数	60床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 236.1 m ² [移動式の場合] 台 数 一 台		病床数	23 床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床 積 40.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名 一			
化学検査室	362 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動化学発光免疫測定装置, 生化学自動分析装置 外	
細菌検査室	130 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物分類同定分析装置, 全自動細菌同定感受性検査装置, 孵卵器 外	
病理検査室	197 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置, 自動染色装置, 自動免疫染色装置, クリオスタット 外	
病理解剖室	111 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台, 遺体保存用冷蔵庫 外	
研 究 室	5,211 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー, クリーンベンチ, 冷蔵庫, 冷凍庫, 中央実験台 外	
講 義 室	1,281 m ²	鉄筋コンクリート	室数 7 室	収容定員 947 人
図 書 室	1,938 m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室	蔵 書 数 221,900 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		84.2%	逆紹介率	101.1%
算出根拠	A：紹介患者の数	23,148人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	29,093人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,076人		
	D：初診の患者の数	28,782人		

- 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会（会長）	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ ☒ 無	1
長谷川 威	長谷川威法律事務所（弁護士）		法律に関する識見を有するため	有・ ☒ 無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学（名誉教授）		医療を受ける者の代表者	有・ ☒ 無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有・無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有・無
公表の方法 ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	21人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	0人
水素ガス吸入療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。例えば高度な症例としては、健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式がある。			
医療技術名	死体肺移植	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 ドナーの片肺、または両肺を、移植を受ける方(レシピエント)の片方または両方の肺と入れ替える方法である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名	死体肝移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常、肝臓全部を採取し、それをレシピエントに移植する方法である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	79
2	筋萎縮性側索硬化症	38	57	特発性拡張型心筋症	97
3	脊髄性筋萎縮症	5	58	肥大型心筋症	22
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	18	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	198	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6
8	ハンチントン病	7	63	特発性血小板減少性紫斑病	24
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	12
11	重症筋無力症	83	66	IgA 腎症	46
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	36
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	48	68	黄色靱帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	27	69	後縦靱帯骨化症	55
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	8
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	28
17	多系統萎縮症	29	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	75	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	23
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	10
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	51	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	38
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	135
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	16	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	98
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	60
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	59
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	2
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	41	89	リンパ管腫症	21
35	天疱瘡	17	90	網膜色素変性症	18
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	5
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	75
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	10
40	高安動脈炎	24	95	自己免疫性肝炎	32
41	巨細胞性動脈炎	9	96	クローン病	193
42	結節性多発動脈炎	10	97	潰瘍性大腸炎	387
43	顕微鏡的多発血管炎	44	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	28	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	17	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	212	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	93	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	76	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	26	107	若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	20	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	7	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	0

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
113	筋ジストロフィー	10	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	2
117	脊髄空洞症	6	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ベリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	2	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	2
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	3
140	ドラベ症候群	2	190	鰓耳腎症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	4	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	2	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	1	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	14	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	2	209	完全大血管転位症	4
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	11

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	11	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	3	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	39	270	慢性再発性多発性骨髄炎	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	7	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	6
227	オスラー病	8	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	$\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	2	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	9
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	7
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	34

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病	0	319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308 進行性白質脳症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309 進行性ミオクロームステんかん	1	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
310 先天異常症候群	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311 先天性三尖弁狭窄症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312 先天性僧帽弁狭窄症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
313 先天性肺静脈狭窄症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
314 左肺動脈右肺動脈起始症	0	326 大理石骨病	0
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316 カルニチン回路異常症	0	328 前眼部形成異常	0
317 三頭酵素欠損症	0	329 無虹彩症	0
318 シトリン欠損症	0	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
		331 特発性多中心性キャッスルマン病	4
		332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・オンライン診療料	・後発医薬品使用体制加算3
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1及び2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算2
・特定機能病院入院基本料(一般)	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料(精神科)	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・救急医療管理加算	・救命救急入院料4
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料1
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料3
・医師事務作業補助体制加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・急性期看護補助体制加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料2
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1及び2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・遠隔モニタリング加算(心臓ペースメーカー指導管理料)	・先天性代謝異常症検査
・糖尿病合併症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料イ、ロ及びハ	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・外来緩和ケア管理料	・国際標準検査管理加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・腎代替療法指導管理料	・胎児心エコー法
・外来放射線照射診療料	・ヘッドアップティルト試験
・ニコチン依存症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・がん治療連携計画策定料	・脳波検査判断料1
・ハイリスク妊産婦連携指導料1及び2	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料1及び2	・コンタクトレンズ検査料1
・精神科退院時共同指導料2	・小児食物アレルギー負荷検査
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・持続血糖測定器加算 間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合 及び間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合	・センチネルリンパ節生検(片側)
・遺伝学的検査	・経気管支凍結生検法
・骨髓微小残存病変量測定	・画像診断管理加算1及び3
・BRCA1/2遺伝子検査	・遠隔画像診断
・がんゲノムプロファイリング検査	・CT撮影及びMRI撮影

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・冠動脈CT撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・外傷全身CT加算	・椎間板内酵素注入療法
・心臓MRI撮影加算	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・乳房MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・頭部MRI撮影加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・外来化学療法加算1	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・連携充実加算	・網膜再建術
・無菌製剤処理料	・人工中耳植込術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・運動器リハビリテーション料(I)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
・リンパ浮腫複合的治療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る)
・精神科作業療法	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・人工腎臓	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・導入期加算2	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・透析液水質確保加算	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・慢性維持透析濾過加算	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を越えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・皮膚移植術(死体)	・同種死体肺移植術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・生体部分肺移植術
・処理骨再建加算	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・内視鏡下筋層切開術	・体外衝撃波胆石破碎術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膽腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術	・同種死体肝移植術
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・経皮的中心隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・生体部分小腸移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・同種死体小腸移植術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・同種死体腎移植術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・生体腎移植術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・膀胱水圧拡張術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則4(性同一性障害の患者に対して行うものに限る。)に掲げる手術	・精密触覚機能検査
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)に掲げる手術 乳房切除術及び子宮付属器腫瘍摘出術	・歯科画像診断管理加算1及び2
・輸血管理料Ⅰ	・歯科口腔リハビリテーション料2
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・手術用顕微鏡加算
・コーディネート体制充実加算	・口腔粘膜処置
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・レーザー機器加算	・CAD/CAM冠
・麻酔管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
・放射線治療専任加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・外来放射線治療加算	・歯周組織再生誘導手術
・高エネルギー放射線治療	・手術時歯根面レーザー応用加算
・1回線量増加加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・強度変調放射線治療(IMRT)	・歯根端切除手術の注3
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・歯科麻酔管理料
・定位放射線治療	・口腔病理診断管理加算2
・画像誘導密封小線源治療加算(IGBT)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・歯科矯正診断料
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・病理診断管理加算2	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・総合医療管理加算	
・歯科治療時医療管理料	
・有床義歯咀嚼機能検査1のⅠ	
・有床義歯咀嚼機能検査1のⅡ及び咀嚼能力検査	
・有床義歯咀嚼機能検査2のⅠ	
・有床義歯咀嚼機能検査2のⅡ及び咬合圧検査	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・骨髄微小残存病変量測定	
・マルチプレックス遺伝子パネル検査	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

(様式第2)

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	【病理診断部門】 ・年間150回 【臨床検査部門】 ・総合内科と6回開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 9 例 / 部検率 3.7 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
卵巣と中枢を繋ぐ生殖内分泌モデュレーターBMPの分子機能解析	大塚 文男	総合内科・総合診療科	1,300,000	補	日本学術振興会
医学生・臨床研修医の「物語能力」教育プログラム開発のための調査研究	小比賀 美香子	総合内科・総合診療科	1,170,000	補	日本学術振興会
ミャンマーのカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌を分子疫学・地政学的視点で解明する	萩谷 英大	総合内科・総合診療科	1,430,000	補	日本学術振興会
肥満症および肥満関連疾患改善のための新しい内視鏡治療法の開発	山崎 泰史	総合内科・総合診療科	2,860,000	補	日本学術振興会
腫瘍免疫活性化遺伝子REICによる肺癌の革新的免疫療法の開発	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	4,680,000	補	日本学術振興会
成人T細胞白血病・リンパ腫におけるエピジェネティック異常の1細胞解析	岡 剛史	血液・腫瘍内科	910,000	補	日本学術振興会
同種造血細胞移植後の閉塞性細気管支炎における組織マクロファージの解析	藤井 伸治	輸血部	780,000	補	日本学術振興会
移植超急性期からの能動的Treg増幅を可能とする新しい免疫制御アルゴリズムの開発	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
新規治療薬のヘルパー/制御性T細胞への作用に基づいた慢性GVHD治療法の開発	西森 久和	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
慢性移植片対宿主病における単球・マクロファージの役割の解明	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
難治性悪性リンパ腫の分子病態の解明と新規治療法の探索	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	2,080,000	補	日本学術振興会
「persister」がん細胞マウスモデルによる肺癌の根治的薬物療法の開発	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	1,690,000	補	日本学術振興会
間質性肺炎合併肺癌に対する新規治療戦略の開発ー化学予防の観点からー	久保 寿夫	腫瘍センター	1,820,000	補	日本学術振興会
ニューロペプチドYを中心とした慢性閉塞性肺疾患の病態解明と炎症・気腫化制御	谷口 暁彦	呼吸器・アレルギー内科	1,560,000	補	日本学術振興会
HER2遺伝子変異肺がんにおける革新的なHER2標的治療法の開発	二宮 貴一朗	呼吸器・アレルギー内科	2,340,000	補	日本学術振興会
自然リンパ球による新規造血調節機構の探索	浅田 騰	血液・腫瘍内科	2,340,000	補	日本学術振興会
遺伝子スクリーニング基盤(LC-SCRUM-JAPAN)を利用した、MET遺伝子異常陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	650,000	委	日本医療研究開発機構
RET融合遺伝子陽性肺癌に対するアレクチニブの有効性を明らかにする研究	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	650,000	委	日本医療研究開発機構
ROS1融合遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究	木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	650,000	委	日本医療研究開発機構
進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の樹立を目指した研究	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	650,000	委	日本医療研究開発機構
特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対する標準治療開発に関する研究	市原 英基	呼吸器・アレルギー内科	390,000	委	日本医療研究開発機構
急性型およびリンパ腫型成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	260,000	委	日本医療研究開発機構
眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤を用いた中枢再発予防法による医師主導多施設共同治験	遠西 大輔	血液・腫瘍内科	130,000	委	日本医療研究開発機構
特発性肺動脈性肺高血圧症由来心筋細胞の特性解明と新規治療薬の開発	赤木 達	循環器内科	1,300,000	補	日本学術振興会

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
デジタル心電データを用いた心臓突然死リスク予測ツール構築	森田 宏	循環器内科	1,040,000	補	日本学術振興会
RAGE-aptamer封入ナノ粒子による肺高血圧症の新規治療法の開発	中村 一文	循環器内科	2,080,000	補	日本学術振興会
大動脈解離におけるインテグリンを介した病態機序の解明と新規治療法の基盤構築	三好 亨	循環器内科	1,170,000	補	日本学術振興会
高齢者のPlatypnea-orthodeoxia症候群に関する包括的研究	中川 晃志	IVRセンター	1,430,000	補	日本学術振興会
尿毒素による心不全発症・再発の病態解明と新規治療戦略の基盤構築	伊藤 浩	循環器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
奇異性脳塞栓症に関与するハイリスクPFO形態を同定するスコアリングの開発	高谷 陽一	超音波診断センター	2,990,000	補	日本学術振興会
神経変性疾患の包括的分子病態解明に基づく次世代型治療法開発	阿部 康二	脳神経内科	5,330,000	補	日本学術振興会
多様な神経疾患治療に応用可能な次世代型ダイレクトリプログラミング法の総合的開発	山下 徹	脳神経内科	1,300,000	補	日本学術振興会
膵癌微小環境のクロストークによる免疫抑制を標的とする次世代ウイルス製剤の開発研究	藤原 俊義	消化管外科	9,230,000	補	日本学術振興会
難治性消化器がんを標的としたホウ素中性子捕捉療法の開発と効果予測マーカーの探索	寺石 文則	低侵襲治療センター	1,690,000	補	日本学術振興会
組織内不均一性を有するHER2陽性胃癌に有効な金ナノ粒子結合抗体薬物複合体の開発	黒田 新士	新医療研究開発センター	1,430,000	補	日本学術振興会
治療抵抗性癌における癌微小環境負のスパイラル機構の解明	白川 靖博	消化管外科	2,210,000	補	日本学術振興会
Liquid Biopsyによる肝内胆管癌molecular subtype分類	榎田 祐三	肝・胆・膵外科	2,210,000	補	日本学術振興会
高リスク神経芽細胞腫に対するテロメラーゼ標的型ウイルスを用いた複合免疫療法の開発	谷本 光隆	小児外科	1,040,000	補	日本学術振興会
肝内胆管癌のエピジェネティクス解析による新規バイオマーカーと治療標的分子の探索	吉田 一博	臓器移植医療センター	1,690,000	補	日本学術振興会
胃癌腹膜播種へ及ぼす腹腔内癌微小環境の影響と細胞外小胞体の関与	香川 俊輔	低侵襲治療センター	1,560,000	補	日本学術振興会
難治性大腸癌のPDXモデルを用いた薬剤耐性に関わる新規バイオマーカーの探索	矢野 修也	卒後臨床研修センター	1,690,000	補	日本学術振興会
胃癌腹膜播種における癌微小環境の解明と新規治療法の開発	菊地 寛次	低侵襲治療センター	1,430,000	補	日本学術振興会
消化器癌の悪性化蛍光イメージング技術の開発と転移療法への応用	西崎 正彦	消化管外科	1,820,000	補	日本学術振興会
癌微小環境における癌関連線維芽細胞のRNA編集の意義と治療への応用	重安 邦俊	低侵襲治療センター	1,690,000	補	日本学術振興会
科学的根拠に基づいたがん免疫療法の評価とPublicity	藤原 俊義	消化管外科	300,000	補	厚生労働省
希少癌診療ガイドラインの作成を通じた医療提供体制の質向上	藤原 俊義	消化管外科	200,000	補	厚生労働省
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	白川 靖博	消化管外科	390,000	委	日本医療研究開発機構
難治がん・希少がんに対するp53癌抑制遺伝子搭載武装化ウイルス製剤の実用化のための非臨床試験	藤原 俊義	消化管外科	100,100,000	委	日本医療研究開発機構
多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立	藤原 俊義	消化管外科	200,000	委	日本医療研究開発機構

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	藤原 俊義	消化管外科	910,000	委	日本医療研究開発機構
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	西崎 正彦	消化管外科	130,000	委	日本医療研究開発機構
ダメージ関連分子パターンに着目した肺線維化関連疾患に対する新規治療法の開発	豊岡 伸一	呼吸器外科	6,890,000	補	日本学術振興会
肺移植ドナーの無気肺に対する新たな肺保護的保存摘出法および機能評価法の開発	三好 健太郎	呼吸器外科	1,820,000	補	日本学術振興会
R-Spondin3による心停止後ドナー肺の虚血再灌流障害の抑制と機序解明	岡崎 幹生	呼吸器外科	1,170,000	補	日本学術振興会
EGFR結合蛋白LRIG1に着目した、EGFR変異陽性肺癌に対する新規治療戦略	山本 寛斉	呼吸器外科	1,040,000	補	日本学術振興会
乳がん診断後のライフスタイルがアウトカムに及ぼす影響を検討するコホート研究	平 成人	乳腺・内分泌外科	1,430,000	補	日本学術振興会
HER2標的薬に対する乳癌細胞の獲得耐性克服を目指した治療戦略の開発	枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	1,170,000	補	日本学術振興会
腫瘍幹細胞マーカーDCLK1を標的とした、悪性胸膜中皮腫に対する新規治療戦略	三好 新一郎	呼吸器外科	2,210,000	補	日本学術振興会
炎症関連分子Spred2に着目したマウスモデルによる移植肺機能温存法の開発	山根 正修	呼吸器外科	910,000	補	日本学術振興会
乳がん初期治療後の生活習慣に関する教育・運動プログラムの開発に関する研究	土井原 博義	乳腺・内分泌外科	1,170,000	補	日本学術振興会
難治性胸部悪性腫瘍の炎症性癌微小環境を標的とした画期的抗体療法	豊岡 伸一	呼吸器外科	1,560,000	補	日本学術振興会
MET異常肺癌に対する新規治療戦略の開発	諏澤 憲	呼吸器外科	2,080,000	補	日本学術振興会
ジャポニカアレイを応用した肺移植後慢性拒絶反応の新しい診断法の開発	杉本 誠一郎	臓器移植医療センター	1,560,000	補	日本学術振興会
標準的乳がんラジオ波熱焼灼療法確立のための多施設共同臨床研究	土井原 博義	乳腺・内分泌外科	390,000	委	日本医療研究開発機構
膀胱再生を目指した排尿平滑筋幹細胞の創出とその応用	渡辺 豊彦	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会
再発性尿路感染症に対する乳酸菌膾坐剤の有効性に関する基礎・臨床的エビデンスの構築	石井 亜矢乃	総合患者支援センター	1,430,000	補	日本学術振興会
前立腺癌幹細胞を標的とした新規遺伝子治療戦略の確立	黄 鵬	泌尿器科	1,690,000	補	日本学術振興会
新規のチェックポイント阻害薬による腫瘍内免疫疲弊解除機構の解明	定平 卓也	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
新規の癌抗原CD147を標的とする適応免疫最適化と尿路性器腫瘍での応用展開	那須 保友	泌尿器科	4,160,000	補	日本学術振興会
REIC/Dkk-3遺伝子による前立腺細胞増殖制御機構に関する研究	高本 篤	泌尿器科	1,300,000	補	日本学術振興会
制限増殖型アデノウイルスを用いた次世代遺伝子治療の基盤研究	小林 泰之	低侵襲治療センター	1,430,000	補	日本学術振興会
細胞骨格ダイナミクスに基づく分子輸送制御システムの解明と革新的癌創薬への新展開	渡部 昌実	新医療研究開発センター	7,410,000	補	日本学術振興会
膀胱癌に対する革新的アブレーション技術の確立と応用展開	枝村 康平	泌尿器科	1,430,000	補	日本学術振興会
Diamond-like-carbon による用途別高開存率人工血管の新規開発	藤井 泰宏	心臓血管外科	1,300,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
管空内DLCコーティングによる細径人工血管開存率向上の試み	村岡 玄哉	心臓血管外科	1,820,000	補	日本学術振興会
腸管スキヤフォールドとコラーゲン結合型成長因子を用いた拍動性グラフトの創成	笠原 真悟	心臓血管外科	1,300,000	補	日本学術振興会
人工心肺使用手術が生体のHMGB1/HRG バランスに与える影響の網羅的検討	大澤 晋	心臓血管外科	1,300,000	補	日本学術振興会
β 3受容体作動薬の心筋虚血再灌流に及ぼす影響	黒子 洋介	心臓血管外科	2,080,000	補	日本学術振興会
DLCコーティングによる抗感染性・抗血栓血管内長期留置型カテーテルの開発	小林 泰幸	心臓血管外科	650,000	補	日本学術振興会
ポータブル心臓灌流装置を用いた心停止ドナーからの心臓移植の臨床応用	末澤 孝徳	心臓血管外科	390,000	補	日本学術振興会
DLCとMPCポリマーから成る無機・有機ハイブリット型小口径人工血管の開発	逢坂 大樹	心臓血管外科	650,000	補	日本学術振興会
DLCコーティングによるワーファリン不要機械弁の開発	衛藤 弘城	心臓血管外科	650,000	補	日本学術振興会
解剖生理学エビデンスに基づく下肢リンパ浮腫の画像機能評価と新たな手術戦略	木股 敬裕	形成外科	4,290,000	補	日本学術振興会
タンパク結合型ICGを用いたリンパ輸送能の定量的評価	山田 潔	形成外科	1,040,000	補	日本学術振興会
乳房再建の治療アウトカムを評価する-患者主観的評価尺度BREAST-Qを用いて-	雑賀 美帆	形成外科	390,000	補	日本学術振興会
乳房再建が予後に及ぼす影響の検討	向井 裕子	形成外科	910,000	補	日本学術振興会
Induced membrane法を用いた遊離軟骨移植の基礎的研究	妹尾 貴矢	形成外科	1,560,000	補	日本学術振興会
肋骨付き前鋸筋弁の新たな展開と選択的逆行性穿通枝造影法の確立	松本 洋	形成外科	2,600,000	補	日本学術振興会
生殖機能獲得を目指した同性・異性間子宮卵巣同時移植の研究	難波 祐三郎	ジェンダーセンター	1,560,000	補	日本学術振興会
乳房再建におけるアウトカム指標の確立と科学的根拠に基づいた患者意思決定支援	木股 敬裕	形成外科	9,029,108	委	日本医療研究開発機構
種痘様水疱症における紫外線曝露による皮疹形成機序の解明	平井 陽至	皮膚科	1,170,000	補	日本学術振興会
種痘様水疱症の重症マーカーの検討	三宅 智子	皮膚科	780,000	補	日本学術振興会
ステロイド治療抵抗性の天疱瘡患者を対象としたリツキシマブの医師主導治験	平井 陽至	皮膚科	300,001	委	日本医療研究開発機構
ゲノム編集技術を用いた網膜における長寿遺伝子の機能解明:加齢黄斑変性の予防戦略	森實 祐基	眼科	1,430,000	補	日本学術振興会
難治性網膜疾患に対する網膜下薬物投与の検討	木村 修平	眼科	1,300,000	補	日本学術振興会
網膜に対するメカニカルストレスの分子生物学的機構の解明	塩出 雄亮	眼科	1,560,000	補	日本学術振興会
ゲノム編集技術を用いたレーバー先天黒内障の病態解明	細川 海音	眼科	1,430,000	補	日本学術振興会
マクロファージ遊走阻止因子を介した中耳炎症性疾患の病態解明と新規治療戦略の確立	假谷 伸	耳鼻咽喉科	1,300,000	補	日本学術振興会
急性感音難聴の病態と治療における内耳免疫メカニズム-内耳遺伝子転写網の解析-	前田 幸英	耳鼻咽喉科	2,860,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
サイトカインの網羅的解析による好酸球性鼻副鼻腔疾患の病態解析と新規治療法の開発	野田 洋平	耳鼻咽喉科	1,560,000	補	日本学術振興会
難聴児における音韻障害の遺伝学的診断法と言語発達評価法の開発	菅谷 明子	耳鼻咽喉科	1,300,000	補	日本学術振興会
アスピリン不耐症に合併する好酸球性副鼻腔炎におけるIL-22の制御機構の解析	檜垣 貴哉	耳鼻咽喉科	780,000	補	日本学術振興会
がん遺伝子シグナル経路の網羅的解析による頭頸部がんの病態解析と新規治療法の開発	牧野 琢丸	耳鼻咽喉科	1,690,000	補	日本学術振興会
唾液マイクロバイオームを利用した頭頸部癌の予後予測および新規治療・予防法の開発	丸中 秀格	耳鼻咽喉科	1,300,000	補	日本学術振興会
難治性ダニアレルギー性鼻炎、難治性スギ花粉症の定義付けとガイドラインへの反映	檜垣 貴哉	耳鼻咽喉科	650,000	委	日本医療研究開発機構
中枢神経系疾患における神経新生とうつ症状:細胞移植、電気刺激、リハビリによる治療	伊達 勲	脳神経外科	5,590,000	補	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬と抗VEGF抗体との併用効果について検証	杉生 憲志	IVRセンター	1,430,000	補	日本学術振興会
カプセル化細胞移植で細胞治療のメカニズムに迫る:脳梗塞後うつ症状への応用	安原 隆雄	脳神経外科	1,690,000	補	日本学術振興会
くも膜下出血後早期脳損傷の病態解明と脳低温療法の脳保護効果の検討	菱川 朋人	脳神経外科	1,300,000	補	日本学術振興会
生体脳に元来備わる神経再生機構の活性化法:電気刺激を用いて	亀田 雅博	脳神経外科	1,820,000	補	日本学術振興会
マウス脳腫瘍モデルのin vivo 環境での継代による、腫瘍溶解性ウイルスの開発	藤井 謙太郎	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会
HMGB1蛋白はもはや手術モデルにおいて血流改善効果をもたらすか?	平松 匡文	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
パーキンソン病に対する迷走神経刺激療法の治療開発を目指す	佐々木 達也	脳神経外科	1,300,000	補	日本学術振興会
遺伝子治療製品「Ad-SGE-REIC」の再発悪性神経膠腫対象第I/IIa 相試験	伊達 勲	脳神経外科	22,094,800	委	日本医療研究開発機構
虚血後治療としての吸入麻酔薬が永久中大脳動脈閉塞ラットの神経学的予後に与える影響	谷西 秀紀	麻酔科蘇生科	1,430,000	補	日本学術振興会
選択的Neuregulin1阻害による化学療法誘発性末梢神経障害の治療法の開発	松岡 義和	集中治療部	1,170,000	補	日本学術振興会
術後せん妄と周術期二酸化炭素管理の関連について	鈴木 聡	集中治療部	1,430,000	補	日本学術振興会
ミクログリアに発現する温度感受性分子の探索と同定	西本 れい	集中治療部	1,170,000	補	日本学術振興会
グルタミン酸トランスポーターを介した下行性疼痛抑制系のパラドクスの解明	小野 大輔	集中治療部	1,170,000	補	日本学術振興会
大動物敗血症モデルを用いた敗血症性腎傷害発生・進展メカニズムの解明	小坂 順子	麻酔科蘇生科	1,170,000	補	日本学術振興会
高度侵襲手術における血漿タンパクHRGの変動	黒田 浩佐	麻酔科蘇生科	1,300,000	補	日本学術振興会
敗血症治療の基礎的臨床研究とコンパニオン診断法開発	森松 博史	麻酔科蘇生科	53,889,600	委	日本医療研究開発機構
マイクロポンプ大量生産技術の開発・事業化	清水 一好	手術部	23,846,680	委	日本医療研究開発機構
小児重症急性腎障害の病態解析と新規治療法の開発 ～生体マーカーを基軸として～	塚原 宏一	小児科	1,950,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自然免疫炎症メディエーターをターゲットとしたインフルエンザ脳症の新規治療の探索	津下 充	小児科	1,690,000	補 日本学術振興会
起立性調節障害の診断・評価に有用なバイオマーカーの検索	藤井 智香子	ダイバーシティ推進センター	520,000	補 日本学術振興会
うつ血性肝硬変に対する再生医療としての間葉系幹細胞移植療法	平井 健太	小児科	1,950,000	補 日本学術振興会
ウィルス性重症呼吸器感染症に係る診断・治療法の研究	八代 将登	小児科	1,950,000	委 日本医療研究開発機構
ヒト脳発現現象の直接記録	小林 勝弘	小児神経科	3,120,000	補 日本学術振興会
稀少てんかんに関する調査研究	小林 勝弘	小児神経科	300,000	補 厚生労働省
てんかんの地域診療連携体制の推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究	小林 勝弘	小児神経科	300,000	補 厚生労働省
代謝物質分析によるけいれん重積型脳症の発症予測因子・重症化因子の検討	秋山 倫之	小児神経科	780,000	補 日本学術振興会
日本語話者における発達性読み書き障害の病因遺伝子解析	岡 牧郎	小児神経科	910,000	補 日本学術振興会
高磁場オープンMRIを用いた安全かつ高精度な新しい針生検法:前向き第Ⅰ相臨床試験	松井 裕輔	小児放射線科	780,000	補 日本学術振興会
遠隔操作型針穿刺ロボットを用いたCT透視ガイド下生検の臨床試験(FIH試験)	平木 隆夫	放射線科	1,690,000	補 日本学術振興会
人工知能を用いた腎臓画像診断支援システムの開発	田中 高志	放射線科	1,690,000	補 日本学術振興会
高分子多糖類を使用した新規血管内塞栓材料の開発	宇賀 麻由	放射線科	1,170,000	補 日本学術振興会
マイクロ波焼灼術の豚肺を用いた基礎研究―肺癌患者への適応拡大に向けて―	生口 俊浩	放射線部	390,000	補 日本学術振興会
CT透視下IVR用針穿刺ロボットにおける半自動穿刺システムの開発	小牧 稔幸	放射線科	1,430,000	補 日本学術振興会
CTガイド下針穿刺ロボットを用いた3次元穿刺技術の開発	櫻井 淳	新医療研究開発センター	1,820,000	補 日本学術振興会
針穿刺ロボットを用いたがんに対する低侵襲治療「CT透視ガイド下アブレーション」の検証的医師主導試験	平木 隆夫	放射線科	44,200,000	委 日本医療研究開発機構
肺毛細血管内皮細胞障害に対する水素ガスの有効性の検討	山田 太平	救命救急科	2,730,000	補 日本学術振興会
水素吸入は補助的治療手段になりうるか?ショックモデルを用いた検討	藤崎 宣友	救命救急科	1,300,000	補 日本学術振興会
腸管上皮細胞における透過性制御機序の解明と臨床への応用	尾迫 貴章	救命救急科	2,730,000	補 日本学術振興会
ARDS亜急性期～慢性期の水素吸入による肺線維化抑制効果:モデルマウスによる検証	青景 聡之	救命救急科	1,820,000	補 日本学術振興会
高齢者の救急・集中治療に対してフレイルが及ぼす影響:多施設共同研究	内藤 宏道	救命救急科	1,170,000	補 日本学術振興会
巨大災害発生時における在宅Health care対象者が健康を維持するための需要と供給に関する実態調査	中尾 博之	救命救急科	850,000	補 (公益財団法人)在宅医療助成勇美記念財団
心肺蘇生を希望しない高齢者の救急搬送の実態	万代 康弘	救命救急科	500,000	補 (公益財団法人)三井住友海上福祉財団研究助成金
ミャンマーにおける救急災害医学教育人材育成事業	中尾 博之	救命救急科	7,652,526	補 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
BRCA1/2陽性卵巣癌の浸透率を左右する因子の同定と発症予測モデル開発	平沢 晃	臨床遺伝子診療科	1,040,000	補	日本学術振興会
がんゲノム啓発を目的としたまんが教材を用いた教育効果の検証	十川 麗美	臨床遺伝子診療科	780,000	補	日本学術振興会
分子バーコードを用いた高感度遺伝子変異解析と機能解析	富田 秀太	ゲノム医療総合推進センター	1,430,000	補	日本学術振興会
放射線う蝕の治療法の確立に向けたセルフエッチング接着システムの基礎的研究	松崎 久美子	むし歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
骨粗鬆症が増殖因子と超音波療法を用いた硬組織形成に及ぼす影響の解明	山路 公造	むし歯科	1,430,000	補	日本学術振興会
レーザー光・紫外線LED等を用いた新たな歯科疾患診断・治療機器の開発に関する研究	島田 康史	むし歯科	500,000	委	国立長寿医療研究センター
コラーゲン結合型FGF-2による水平性歯槽骨吸収に対する歯周組織再生療法の開発	高柴 正悟	歯周科	3,380,000	補	日本学術振興会
幹細胞ニッチの制御を目指したインテグリンペプチド療法の開発	山本 直史	歯周科	1,560,000	補	日本学術振興会
超高齢社会での応用を目指す低分子化合物terreinの標的分子の同定・機能解析	大森 一弘	歯周科	1,690,000	補	日本学術振興会
低栄養時の炎症の遷延化, 創傷治癒遅延のメカニズム解明: HMGB1機能不全の可能性	山城 圭介	歯周科	1,820,000	補	日本学術振興会
Inflamm-agingを中心とした歯周病, サルコペニア, 糖尿病の病態解明	小林 寛也	歯周科	1,560,000	補	日本学術振興会
歯周病原細菌におけるRNA結合蛋白質Hfqによる病原因子制御機構の解明	平井 公人	歯周科	2,210,000	補	日本学術振興会
変形性関節症の発症予防を目指したWISP遺伝子の機能解析	前田 あずさ	クラウンブリッジ補綴科	1,040,000	補	日本学術振興会
咀嚼が認知機能に与える影響の検討および認知症早期診断バイオマーカーの網羅的探索	三野 卓哉	クラウンブリッジ補綴科	1,170,000	補	日本学術振興会
オーラルフレイル回避を目指した筋機能訓練の有効性検討と新規個別スキームの開発	水口 一	クラウンブリッジ補綴科	2,080,000	補	日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の骨髄微小環境と大腸菌由来BMP-2の応用	縄稚 久美子	クラウンブリッジ補綴科	1,300,000	補	日本学術振興会
ステムセルエイジングの制御に向けた間葉系幹細胞未分化性維持機構の解明	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	2,470,000	補	日本学術振興会
顎関節MRIによる関節円板転位症例の長期予後評価と新規リスク因子の解明	三木 春奈	クラウンブリッジ補綴科	650,000	補	日本学術振興会
慢性腎臓病感染症発症における口腔内細菌叢からの理解	小山 絵理	クラウンブリッジ補綴科	2,080,000	補	日本学術振興会
人工知能による機械学習を応用した咀嚼・嚥下運動の医療画像診断支援システムの開発	逢坂 卓	クラウンブリッジ補綴科	1,820,000	補	日本学術振興会
咀嚼筋由来マイオカインの概念確立 ―一次世代シーケンシングによる生体内網羅的解析―	沼本 賢	クラウンブリッジ補綴科	2,210,000	補	日本学術振興会
病的歯槽骨吸収の疾患定義とその原因遺伝子同定のためのゲノムワイド関連解析	中川 晋輔	クラウンブリッジ補綴科	780,000	補	日本学術振興会
腸内エコシステムの観点からのフレイルの病態理解と早期バイオマーカーの探索	徳本 佳奈	クラウンブリッジ補綴科	1,430,000	補	日本学術振興会
幹細胞ニッチの観点からの抜歯窩創傷治癒メカニズムおよびMRONJ病態の解明	三海 晃弘	クラウンブリッジ補綴科	1,430,000	補	日本学術振興会
間葉系幹細胞の機能低下から見た歯周病やインプラント周囲炎発症の新規理解と対策	秋山 謙太郎	クラウンブリッジ補綴科	3,380,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
iPS干渉法を応用した歯胚発生メカニズムの理解と歯の再生技術への応用	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	5,070,000	補	日本学術振興会
基底膜構成分子の誘導制御による低侵襲角化歯肉獲得療法の確立	前川 賢治	クラウンブリッジ補綴科	4,420,000	補	日本学術振興会
BMP-2含有人工骨膜の難治性骨疾患・骨癒合不全治療への応用	大野 彩(木村彩)	新医療研究開発センター	1,170,000	補	日本学術振興会
インプラント周囲の骨吸収発生予知を目的とした歯槽骨骨密度評価の有用性の検討	黒崎 陽子	新医療研究開発センター	2,080,000	補	日本学術振興会
死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要介護高齢者の尊厳を最後まで守る多職種連携口腔栄養サービスの推進事業	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	3,044,800	委	岡山県
ベトナム北部有名医療系大学との先端歯学研究交流事業	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	1,608,650	補	科学技術振興機構
咀嚼運動による舌根部オーラル・フレイル回避効果に関する基礎研究	皆木 省吾	咬合・義歯補綴科	3,250,000	補	日本学術振興会
光重合型架橋性ビニルエステルを用いた新規多孔型吸収性骨補填材の開発	原 哲也	咬合・義歯補綴科	1,170,000	補	日本学術振興会
メタルフリー修復に対する長鎖シランカップリングを用いた新しい接着システム	丸尾 幸憲	咬合・義歯補綴科	1,430,000	補	日本学術振興会
高齢者の嚥下機能低下を防止する頸部表面筋電図を応用した日常運動の創製	萬田 陽介	咬合・義歯補綴科	1,300,000	補	日本学術振興会
癌骨破壊病変の癌関連線維芽細胞とマスト細胞との相互作用による骨吸収機構の解析	佐々木 朗	口腔外科(病態系)	3,380,000	補	日本学術振興会
Semaphorin 4Dが口腔癌骨浸潤に果たす役割とその発現制御機構	伊原木 聡一郎	口腔外科(病態系)	1,560,000	補	日本学術振興会
Angiogeninの活性阻害剤N65828による口腔癌分子標的治療への展開	岸本 晃治	口腔外科(病態系)	1,430,000	補	日本学術振興会
口腔癌の骨浸潤・骨転移において神経ペプチドCGRPが果たす役割と骨破壊制御機構	吉岡 徳枝	口腔外科(病態系)	1,820,000	補	日本学術振興会
知覚神経におけるHMGB1シグナルを標的とした新規口腔癌骨破壊病変治療の開拓	奥井 達雄	口腔外科(病態系)	2,080,000	補	日本学術振興会
脂質代謝を標的とした新規免疫抑制解除型治療の基盤研究	國定 勇希	口腔外科(病態系)	1,300,000	補	日本学術振興会
内軟骨性骨化における軟骨細胞死の誘導機構; CCN2によるレドックス制御とその破綻	村瀬 友里香	口腔外科(病態系)	2,340,000	補	日本学術振興会
口腔癌エクソソームの網羅的解析による新規体液診断・治療体系の確立	小野 喜章	口腔外科(病態系)	1,430,000	補	日本学術振興会
過分極活性化環状スクレオチド依存性チャネル阻害薬の疼痛制御機構の解明	宮脇卓也	歯科麻酔科	1,560,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアダイナミクス異常が唾液腺機能に及ぼす影響の検討	樋口 仁	歯科麻酔科	1,430,000	補	日本学術振興会
周術期脳虚血モデルに対するデルタオピオイド受容体アゴニストの効果	前田 茂	歯科麻酔科	1,300,000	補	日本学術振興会
ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体を介した麻酔薬の抗炎症作用の解明	若杉優花	歯科麻酔科	1,300,000	補	日本学術振興会
がん化学療法中の好中球減少性発熱と歯内・歯周感染の関連の実証および治療効果の発信	曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	1,170,000	補	日本学術振興会
術後絶食中のガム咀嚼は、食道がん手術後の予後を改善できるのか？	山中 玲子	医療支援歯科治療部	1,690,000	補	日本学術振興会
クロザピン誘発無顆粒球症に対する漢方薬「補劑」の有効性の検討	江角 悟	薬剤部	540,000	補	日本学術振興会

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ネラチニブ耐性乳がんモデル動物におけるダサチニブ併用療法の有用性の検討	武田 達明	薬剤部	540,000	補	日本学術振興会
骨周囲感染制御におけるミノサイクリン含有医療用セメントの有用性に関する研究	丸尾 陽成	薬剤部	540,000	補	日本学術振興会
時計遺伝子に着目した抗がん剤による不眠発症メカニズムの解明	白水 翔也	薬剤部	540,000	補	日本学術振興会
セロトニン－キヌレニン経路破綻に着目した抗がん剤誘発精神機能障害の病態解明	北村 佳久	薬剤部	1,300,000	補	日本学術振興会
半構造化面接法および質問紙法から明らかにする薬剤師が“がん患者”との面談時に苦慮する点～適正な薬物療法実施に向けて～	北村 佳久	薬剤部	620,000	補	(公益財団法人) 政策医療振興財団

小計5件

金額合計

579,666,165 円

合計204件

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nishimura Y, Yamamoto A, Takahara M, et al.	総合内科・総合診療科	Mesenteric Follicular Lymphoma.	Clin. Case Rep. 2019 Apr;7(5):1108-1109	Case report
2	Nishimura Y, Wake H, Teshigawara K, et al.	総合内科・総合診療科	Histidine-Rich Glycoprotein Augments Natural Killer Cell Function by Modulating PD-1 Expression via CLEC-1B.	Pharmacol Res Perspect. 2019 May;7(3):e00481	Original Article
3	Nishimura Y, Hanayama Y, Fujii N, et al.	総合内科・総合診療科	A Comparison of the Clinical Characteristics of TAFRO Syndrome and Idiopathic Multicentric Castleman Disease in General Internal Medicine: A 6-Year Retrospective Study.	Intern Med J. 2020 Feb; 50(2):184-191	Original Article
4	Nishimura Y, Miyoshi T, Obika M, et al.	総合内科・総合診療科	Factors Related to Burnout in Resident Physicians in Japan.	Int. J. Med. Educ. 2019 Jul;10:129-135	Original Article
5	Hasegawa K, Hanayama Y, Obika M, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical and biochemical characteristics of patients having general symptoms with increased serum IgG4.	Mod Rheumatol. 2019 Aug;1-8	Original Article
6	Otsuka Y, Yasuda M, Tokumasu K, et al.	総合内科・総合診療科	Hashimoto's Thyroiditis & Primary Thyroid Lymphoma.	QJM. 2020 Jan;hcaa002	Case report
7	Hagiya H, Aoki K, Akeda Y, et al.	総合内科・総合診療科	In Vitro Effectiveness of Meropenem and Cefmetazole Combination Treatment Against KPC-2-Producing Enterobacteriaceae.	Microb Drug Resist. 2019 Jul;25(6):839-845	Original Article
8	Hagiya H, Kokado R, Ueda A, et al.	総合内科・総合診療科	Association of Adverse Drug Events with Broad-spectrum Antibiotic Use in Hospitalized Patients:: A Single-center Study.	Intern Med. 2019 Sep; 58(18):2621-2625	Original Article
9	Hagiya H, Koyama T, Zamami Y, et al.	総合内科・総合診療科	Fall-related mortality trends in older Japanese adults aged ≥65 years: a nationwide observational study.	BMJ Open. 2019 Dec; 9(12):e033462	Original Article
10	Hagiya H, Sugawara Y, Tsutsumi Y, et al.	総合内科・総合診療科	In Vitro Efficacy of Meropenem- Cefmetazole Combination Therapy against New Delhi Metallo-β- lactamase-producing Enterobacteriaceae.	Int J Antimicrob Agents. 2020 Mar; 55(3):105905	Original Article
11	Hagiya H, Yoneda N, Kimura K, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical Impact of Extended Blood Culture Examination: Too Much of a Good Thing.	J Infect Chemother. 2019 Jul;25(7):559-562	Others
12	Hagiya H, Maeda T, Kusakabe S, et al.	総合内科・総合診療科	A fatal case of Exophiala dermatitidis disseminated infection in an allogeneic hematopoietic stem cell transplant recipient during micafungin therapy.	J Infect Chemother. 2019 Jun;25(6):463-466	Case report
13	Hagiya H, Kimura K, Okuno H, et al.	総合内科・総合診療科	Bacteremia due to high-level daptomycin-resistant Corynebacterium striatum: A case report with genetic investigation.	J Infect Chemother. 2019 Nov;25(11):906- 908	Case report
14	Hagiya H, Nakagami F, Minami Y, et al.	総合内科・総合診療科	Pustules on the back possibly triggering toxic-shock syndrome.	BMJ Case Rep. 2019 Jun;12(6):e229610	Case report
15	Ninomiya K, Hata T, Yoshioka H, et al.	呼吸器・アレルギー内科	A Prospective Cohort Study to Define the Clinical Features and Outcome of Lung Cancers Harboring HER2 Aberration in Japan (HER2-CS STUDY).	Chest. 2019 Aug;156(2):357-366	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
16	Ichihara E, Hotta K, Ninomiya K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Re-administration of osimertinib in osimertinib-acquired resistant non-small-cell lung cancer.	Lung cancer. 2019 Jun;132:54-58	Original Article
17	Ichihara E, Harada D, Inoue K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	The impact of body mass index on the efficacy of anti-PD-1/PD-L1 antibodies in patients with non-small cell lung cancer.	Lung Cancer. 2020 Jan;139:140-145	Original Article
18	Hotta K, Fujimoto N, Kozuki T, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Nivolumab for the treatment of unresectable pleural mesothelioma.	Expert Opin Biol Ther. 2020 Feb;20(2): 109-114	Original Article
19	Ennishi D, Takata K, Bé guelin W, et al.	ゲノム医療総合推進センター	Molecular and Genetic Characterization of MHC Deficiency Identifies EZH2 as Therapeutic Target for Enhancing Immune Recognition.	Cancer Discovery. 2019 Apr;9(4):546-563	Original Article
20	Maeda Y, Ugai T, Kondo E, et al.	血液・腫瘍内科	HLA discrepancy between graft and host rather than that graft and first donor impact the second transplant outcome.	Haematologica. 2019 May;104(5):1055-61	Original Article
21	Fujiwara H, Tooubai T, Rocci C, et al.	血液・腫瘍内科	Host NLRP6 Exacerbates Graft-Versus-Host Disease Independent of Gut Microbial Composition.	Nature Microbiology. 2019 May;4(5):800-812	Original Article
22	Nishimori H.	血液・腫瘍内科	Expert's comment for Relapsed refractory nodal peripheral T-cell lymphoma with follicular helper T-cell phenotype was initially resistant to pralatrexate and confirmed to be unresponsive to subsequent forodesine, but responded to re-instituted pralatrexate.	J Clin Exp Hematop. 2020 Mar;60(1):29	Letter
23	Toda H, Uchida H, Nakamura K, et al.	循環器内科	Combination of Renal Angioplasty and Angiotensin-converting-enzyme Inhibitor Can Reduce Proteinuria in Patients with Bilateral Renal Artery Disease.	Intern Med. 2019 Jul;58(13):1917-1922	Original Article
24	Nakamura K, Akagi S, Ejiri K, et al.	循環器内科	Current Treatment Strategies and Nanoparticle-Mediated Drug Delivery Systems for Pulmonary Arterial Hypertension.	Int J Mol Sci. 2019 Nov;20(23):5885	Original Article
25	Nakagawa K, Akagi T, Nagase S, et al.	IVRセンター	Efficacy of catheter ablation for paroxysmal atrial fibrillation in patients with atrial septal defect: a comparison with transcatheter closure alone.	Europace. 2019 Nov;21(11):1663-1669	Original Article
26	Ejiri K, Noriyasu T, Nakamura K, et al.	循環器内科	Unprecedented crisis-Heart failure hospitalizations in current or future Japan.	J Cardiol. 2019 Nov;74(5):426-427	Original Article
27	Miyoshi T, Osawa K, Ichikawa K, et al.	循環器内科	Emerging Role of Coronary Computed Tomography Angiography in Lipid-Lowering Therapy: a Bridge to Image-Guided Personalized Medicine.	Curr Cardiol Rep. 2019 Jun;21(8):72	Review
28	Nakayama R, Takaya Y, Akagi T, et al.	循環器内科	Identification of High-Risk Patent Foramen Ovale Associated With Cryptogenic Stroke: Development of a Scoring System.	J Am Soc Echocardiogr. 2019 Jul;32(7):811-816	Original Article
29	Amioka N, Miyoshi T, Otsuka H, et al.	循環器内科	Serum malondialdehyde-modified low-density lipoprotein levels on admission predict prognosis in patients with acute coronary syndrome undergoing percutaneous coronary intervention.	J Cardiol. 2019 Sep;74(3):258-266	Original Article
30	Miki T, Miyoshi T, Kotani K, et al.	循環器内科	Decrease in oxidized high-density lipoprotein is associated with slowed progression of coronary artery calcification: Subanalysis of a prospective multicenter study.	Atherosclerosis. 2019 Apr;283:1-6	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
31	Nakamura K, Miyoshi T.	循環器内科	The optimal amount of salt intake.	Hypertens Res. 2019 May;42(5):752-753	Original Article
32	Tadokoro K, Moriyama R, Ohta Y, et al.	脳神経内科	Clinical Benefits of Antioxidative Supplement Twendee X for Mild Cognitive Impairment: A Multicenter, Randomized, Double-Blind, and Placebo-Controlled Prospective Interventional Study.	J Alzheimers Dis. 2019 Jul;71(3):1063-1069	Original Article
33	Yamashita T, Shang J, Nakano Y, et al.	脳神経内科	In Vivo Direct Reprogramming of Glial Lineage to Mature Neurons After Cerebral Ischemia.	Sci Rep. 2019 Jul;9(1):10956	Original Article
34	Abe K, Shang J, Shi X, et al.	脳神経内科	A New Serum Biomarker Set to Detect Mild Cognitive Impairment and Alzheimer's Disease by Peptidome Technology.	J Alzheimers Dis. 2020 Jan;73(1):217-227	Original Article
35	Kikuchi S, Kuroda S, Nishizaki M, et al.	低侵襲治療センター	Comparison of the Effects of Epidural Analgesia and Patient-controlled Intravenous Analgesia on Postoperative Pain Relief and Recovery After Laparoscopic Gastrectomy for Gastric Cancer.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2019 Oct;29:405-408	Original Article
36	Kikuchi S, Kubota T, Kuroda S, et al.	低侵襲治療センター	Endoscopic Ultrasound-Guided Transgastric Drainage of an IntraAbdominal Abscess following Gastrectomy.	Clin Endosc. 2019 Jul;52:373-376	Original Article
37	Fujiwara T.	消化管外科	Multidisciplinary oncolytic virotherapy for gastrointestinal cancer.	Ann Gastroenterol Surg. 2019 Jul;3:396-404	Original Article
38	Takagi K, Domagala P, Hartog H, et al.	肝・胆・膵外科	Current evidence of nutritional therapy in pancreatoduodenectomy: Systematic review of randomized controlled trials.	Ann Gastroenterol Surg. 2019 Oct;3:620-629	Original Article
39	Takagi K, Domagala P, Porte RJ, et al.	肝・胆・膵外科	Liver retransplantation in adult recipients: Analysis of a 38-year experience in the Netherlands.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2020 Jan;27:26-33	Original Article
40	Takagi K, Kimenai HJAN, IJzermans JNM, et al.	肝・胆・膵外科	Obese living kidney donors: a comparison of hand-assisted retroperitoneoscopic versus laparoscopic living donor nephrectomy.	Surg Endosc. 2019 Nov (オンライン)	Original Article
41	Takagi K, Domagala P, Polak WG, et al.	肝・胆・膵外科	Right posterior segment graft for living donor liver transplantation: A systematic review.	Transplant Rev (Orlando). 2020 Jan;34(1):100510	Original Article
42	Takagi K, Domagala P, Polak WG, et al.	肝・胆・膵外科	Prognostic significance of the controlling nutritional status (CONUT) score in patients undergoing hepatectomy for hepatocellular carcinoma: a systematic review and meta-analysis.	BMC Gastroenterol. 2019 Dec;19:211	Original Article
43	Suzawa K, Soh J, Takahashi Y, et al.	呼吸器外科	Clinical outcome of patients with recurrent non-small cell lung cancer after trimodality therapy.	Surg Today. 2019 Jul;49(7):601-609	Original Article
44	Suzawa K, Offin M, Schoenfeld AJ, et al.	呼吸器外科	Acquired MET Exon 14 Alteration Drives Secondary Resistance to Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitor in EGFR-Mutated Lung Cancer.	JCO Precis Oncol. 2019 May (オンライン)	Original Article
45	Sugimoto S, Yamamoto H, Kurosaki T, et al.	臓器移植医療センター	Impact of chronic lung allograft dysfunction, especially restrictive allograft syndrome, on the survival after living-donor lobar lung transplantation compared with cadaveric lung transplantation in adults: a single-center experience.	Surg Today. 2019 Aug;49(8):686-693	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
46	Nishiyama K, Taira N, Mizoo T, et al.	乳腺内分泌外科	Influence of breast density on breast cancer risk: a case control study in Japanese women.	Breast Cancer. 2020 Mar;27(2):277-283	Original Article
47	Nishimura S, Wada K, Araki M, et al.	臓器移植医療センター	Use of single-dose perioperative antimicrobial therapy is acceptable in recipients of living-donor renal transplants in the rituximab era.	J Infect Chemother. 2019 Apr;25(4):247-252	Original Article
48	Sadahira T, Mitsui Y, Araki M, et al.	泌尿器科	Pelvic magnetic resonance imaging parameters predict urinary incontinence after robot-assisted radical prostatectomy.	Low Urin Tract Symptoms. 2019 May;11(3):122-126	Original Article
49	Araki M, Wada K, Kawamura K, et al.	泌尿器科	Robotic-assisted renal autotransplantation: Preliminary studies and future directions.	Endourology Progress. 2019 Apr;143- 148	Others
50	Sadahira T, Wada K, Ikawa K, et al.	泌尿器科	Clinical pharmacokinetics of oral azithromycin in epididymal tissue.	J Infect Chemother. 2019 Oct;25(10):832-834	Original Article
51	Maruyama Y, Sadahira T, Araki M, et al.	泌尿器科	Comparison of the predictive value among inflammation-based scoring systems for bleomycin pulmonary toxicity in patients with germ cell tumors.	Int J Urol. 2019 Aug;26(8):813-819	Original Article
52	Mitsui Y, Tomonobu N, Watanabe M, et al.	泌尿器科	Upregulation of mobility in pancreatic cancer cells by secreted S100A11 through activation of surrounding fibroblasts.	Oncology Research. 2019 Aug;27(8):945-956	Original Article
53	Tominaga Y, Sadahira T, Mitsui Y, et al.	泌尿器科	Favorable long-term oncological and urinary outcomes of incidental prostate cancer following holmium laser enucleation of the prostate.	Mol Clin Oncol. 2019 Jun;10(6):605-609	Original Article
54	Kawamura K, Araki M, Maruyama Y, et al.	泌尿器科	Rituximab induction therapy is effective without increasing adverse events in immunological high risk recipients.	J Urol. 2019 May;201(4S):e1124-1125	Others
55	Kobayashi Y, Kotani Y, Kuroko Y, et al.	心臓血管外科	Congenital left ventricular aneurysm diagnosed with atrial septal defect.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2019 Jun;27(5):404-406	Original Article
56	Taka H, Miyoshi K, Kurosaki T, et al.	心臓血管外科	Lung transplantation via cardiopulmonary bypass: excellent survival outcomes from extended criteria donors.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Jul;67(7):624-632	Original Article
57	Takaya Y, Watanabe N, Ikeda M, et al.	超音波診断センター	Importance of Abdominal Compression Valsalva Maneuver and Microbubble Grading in Contrast Transthoracic Echocardiography for Detecting Patent Foramen Ovale.	J Am Soc Echocardiogr. 2020 Feb;33(2):201-206	Original Article
58	Ousaka D, Sakano N, Morita M, et al.	心臓血管外科	A new approach to prevent critical cardiac accidents in athletes by real-time electrocardiographic tele-monitoring system: Initial trial in full marathon.	J Cardiol Cases. 2019 May;20(1):35-38	Case report
59	Ousaka D, Ikemoto N, Fujiwara M, et al.	心臓血管外科	Duplex doppler ultrasonography with normal pulsatile features has misleading diagnostic potential in acute limb ischemia: a case report.	J Med Ultrason. 2020 Jan;47(1):147-148	Case report
60	Mukai Y, Sakurai T, Watanabe T, et al.	形成外科	Laparoscopic Rectosigmoid Colon Vaginoplasty in Male-to-Female Transsexuals: Experience in Japan.	Acta Med Okayama. 2019 Jun;73(3):205-211	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Watanabe T, Sakurai T, Mukai Y, et al.	形成外科	Risk Factors for Postoperative Hematoma after Chest Wall Contouring for Female-to-Male Transsexuals: A Clinical Study.	Acta Med Okayama. 2019 Oct;73(5):441-447	Original Article
62	Watanabe S, Mukai Y., Kimata Y.	形成外科	The New Bioabsorbable Sheet for the Sling Method in Immediate Breast Reconstruction With Expander-Implant: A Study Protocol for Interventional Prospective Study.	Nagoya journal of medical science, 2020 Feb; 82(1):39-45	Original Article
63	Namba Y, Watanabe T, Kimata Y.	ジェンダーセンター	Flap Combination Phalloplasty in Female-to-Male Transsexuals.	Jornal for Sexual Medicine. 2019 Jun;16(6):934-941	Original Article
64	Sugihara S, Sugimoto S, Tachibana K, et al.	皮膚科	TNF- α and IL-17A induce the expression of lympho-epithelial Kazal-type inhibitor in epidermal keratinocytes.	J Dermatol Sci. 2019 Oct; 96:26-32	Original Article
65	Hamasaki I, Shibata K, Shimizu T, et al.	眼科	Lights-out Surgery for Strabismus Using a Heads-Up 3D Vision System.	Acta Med Okayama. 2019 Jun;73(3):229-233	Original Article
66	Kimura S, Morizane Y, Hosokawa M, et al.	眼科	Outcomes of Vitrectomy Combined With Subretinal Tissue Plasminogen Activator Injection for Submacular Hemorrhage Associated With Polypoidal Choroidal Vasculopathy.	Jpn J Ophthalmol. 2019 Sep;63(5):382-388	Original Article
67	Takahashi K, Morizane Y, Kimura S, et al.	眼科	Results of Lamellar Macular Hole-Associated Epiretinal Proliferation Embedding Technique for the Treatment of Degenerative Lamellar Macular Hole.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2019 Oct;257(10):2147-2154	Original Article
68	Shibata K, Hamasaki I, Shimizu T, et al.	眼科	Twist Knot: A New Sliding Noose in Adjustable Suture Strabismus Surgery.	Acta Med Okayama. 2019 Oct;73(5):463-468	Case report
69	Maeda Y, Kariya S, Fujimoto S, et al.	耳鼻咽喉科	Progression of hearing loss and choice of hearing aids by patients in their 60s, 70s, and 80s and older: experience in the Japanese super-aged era.	Acta Otolaryngol. 2019 Sep;139:1077-1082	Case report
70	Sugaya A, Fukushima K, Takao S, et al.	耳鼻咽喉科	Impact of reading and writing skills on academic achievement among school-aged hearing-impaired children.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2019 Nov;126:109619	Case report
71	Sugiu K, Hishikawa T, Hiramatsu M, et al.	IVRセンター	Endovascular treatment for craniofacial arteriovenous fistula/malformation.	Journal of Neuroendovascular. 2019 May;13(5):206-215	Original Article
72	Hishikawa T, Sugiu K, Murai S, et al.	脳神経外科	A comparison of the prevalence and risk factors of complications in intracranial tumor embolization between the Japanese Registry of NeuroEndovascular Therapy 2 (JR-NET2) and JR-NET3.	Acta Neurochirurgica. 2019 Aug;161(8):1675-1682	Original Article
73	Sasaki T, Kuwahara K, Kin I, et al.	脳神経外科	Identification of somatotopic organization and optimal stimulation site within the subthalamic nucleus for Parkinson's disease.	Operative Neurosurgery (Hagerstown, Md.). 2019 Sep;17(3):239-246	Original Article
74	Murai S, Hiramatsu M, Takasugi Y, et al.	脳神経外科	Metal artifact reduction algorithm for image quality improvement of cone-beam CT images of medium or large cerebral aneurysms treated with stent-assisted coil embolization.	Neuroradiology. 2020 Jan;62(1):89-96	Original Article
75	Murai S, Sugiu K, Hishikawa T, et al.	脳神経外科	A Case of Ruptured Arteriovenous Malformation Successfully Treated With Target Embolization for Pseudoaneurysm Detected Using Chronological Three-dimensional Digital Subtraction Angiography Fusion Images.	No Shinkei Geka. 2020 Jan;48(1):39-45	Case Report

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Yasuhara T.	脳神経外科	Neurobiology research in Parkinson' disease.	International Journal of Molecular Sciences. 2020 Jan;21(3):793	Review
77	Kameda M, Hishikawa T, Hiramatsu M, et al.	脳神経外科	Precise MEP monitoring with a reduced interval is safe and useful for detecting permissive duration for temporary clipping.	Scientific Reports. 2020 Feb (オンライン)	Original Article
78	Nishii N, Morimoto Y, Miyoshi A, et al.	循環器内科	Prognosis after lead extraction in patients with cardiac implantable electronic devices infection: Comparison of lead-related infective endocarditis with pocket infection in a Japanese single-center experience.	J Arrhythm. 2019 Jun; 35(4):654-663	Original Article
79	Manabe S, Miyano K, Fujii Y, et al.	麻酔科蘇生科	Possible biased analgesic of hydromorphone through the G protein-over beta-arrestin-mediated pathway: cAMP, CellKey, and receptor internalization analyses.	J Pharmacol Sci. 2019 Jun;140(2):171-177	Original Article
80	Okamura T, Washio Y, Yoshimoto J, et al.	小児科	Exchange Transfusion and Cytarabine for Transient Abnormal Myelopoiesis in Hydrops Fetalis.	Acta Med Okayama. 2019 Apr;73(2):181-188.	Case report
81	Fukushima Y, Baba K, Kondo M, et al.	小児科	Balloon atrial septostomy in hypoplastic left heart syndrome with restrictive atrial septum.	Pediatr Int. 2019 Apr;61(4):339-344.	Original Article
82	Shimada A.	小児血液・腫瘍科	Hematological malignancies and molecular targeting therapy.	Eur J Pharmacol. 2019 Nov;862:172641.	Review
83	Tanaka T, Froemming AT, Panda A, et al.	放射線科	Safety and Image Quality of 1.5-T Endorectal Coil Multiparametric MRI of the Prostate or Prostatectomy Fossa for Patients With Pacemaker or Implantable Cardioverter-Defibrillator.	AJR Am J Roentgenol. 2019 Apr;212:815-822	Original Article
84	Yoshio K, Wakita A, Mitsuhashi T, et al.	放射線科	Simultaneous Integrated Boost Volumetric Modulated Arc Therapy for Middle or Lower Esophageal Cancer Using Elective Nodal Irradiation: Comparison with 3D Conformal Radiotherapy.	Acta Med Okayama. 2019 Jun;73:247-257	Original Article
85	Watanabe K, Katayama N, Katsui K, et al.	放射線科	Interobserver Variability of 3.0-tesla and 1.5-tesla Magnetic Resonance Imaging/Computed Tomography Fusion Image-Based Post-Implant Dosimetry of Prostate Brachytherapy.	J Radiat Res. 2019 Jul;60:483-489	Original Article
86	Tanaka T, Masaoka Y, Sugimoto S, et al.	放射線科	Cavernous hemangioma of the rib mimicking a chondrosarcoma: Diagnostic value of delayed phase MRI.	Diagn Interv Imaging. 2019 Jul;100:455-457	Case report
87	Matsui Y, Sakurai J, Hiraki T, et al.	小児放射線科	MRI-guided percutaneous needle biopsy with 1.2T open MRI: study protocol for a prospective feasibility study (SCIRO-1701).	Nagoya J. Med. Sci. 2019 Aug;81:463-468	Original Article
88	Yoshio K, Wakita A, Hisazumi K, et al.	放射線科	Feasibility of 5-mm vs 2.5-mm width multileaf collimator in noncoplanar volumetric modulated arc stereotactic radiotherapy for multiple brain metastases.	Med Dosim. 2019 Aug;45:97-101	Original Article
89	Matsui Y, Hiraki T, Gohara H, et al.	小児放射線科	Percutaneous thermal ablation for renal cell carcinoma in patients with Birt-Hogg-Dub syndrome.	Diagn Interv Imaging. 2019 Nov;100:671-677	Original Article
90	Sugiyama S, Katsui K, Tominaga Y, et al.	放射線科	Dose distribution of intensity-modulated proton therapy with and without a multi-leaf collimator for the treatment of maxillary sinus cancer: a comparative effectiveness study.	Radiat Oncol. 2019 Nov;14:209	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Katsui K, Ogata T, Watanabe K, et al.	放射線科	Dose-volume parameters predict radiation pneumonitis after induction chemoradiotherapy followed by surgery for non-small cell lung cancer: a retrospective analysis.	BMC Cancer. 2019 Nov;19:1144	Original Article
92	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線科	Reversible phrenic nerve injury after radiofrequency ablation of lung tumor.	Diagn Interv Imaging. 2019 Nov;100:725-727	Case report
93	Kitayama T, Akaki S, Hisazumi K, et al.	小児放射線科	An Adult Case of Nasal Chondromesenchymal Hamartoma: Imaging Characteristics Including Diffusion-Weighted Images.	Acta Med Okayama. 2019 Dec;73:529-532	Case report
94	Hiraki T, Kamegawa T, Matsuno T, et al.	放射線科	Robotic needle insertion during computed tomography fluoroscopy-guided biopsy: prospective first-in-human feasibility trial.	Eur Radiol. 2020 Feb;30:927-933	Original Article
95	Tanaka T, Huang Y, Marukawa Y, et al.	放射線科	Differentiation of Small (≤ 4 cm) Renal Masses on Multiphase Contrast-Enhanced CT by Deep Learning.	AJR Am J Roentgenol. 2020 Mar;214:605-612	Original Article
96	Iguchi T, Hiraki T, Matsui Y, et al.	放射線科	Embolization Using Hydrogel-Coated Coils for Pulmonary Arteriovenous Malformations.	Diagn Interv Imaging. 2020 Mar;101:129-135	Original Article
97	Iida A, Naito H, Yorifuji T, et al.	救命救急科	Factors Affecting the Absorption of Midazolam to the Extracorporeal Membrane Oxygenation Circuit.	Acta Med Okayama. 2019 Apr;73(2):101-107	Original Article
98	Matsubara T, Soh J, Morita M, et al.	バイオバンク	DV200 Index for Assessing RNA Integrity in Next-Generation Sequencing.	Biomed Res Int. 2020 Feb (オンライン)	Original Article
99	Yokoyama A, Yamaji K, Ohara N, et al.	むし歯科	Effects of Direct Pulp Capping on Hard Tissue Formation by Using Alginate Gel Containing Bone Morphogenetic Protein-2.	Journal of Oral Tissue Engineering. 2019 Dec; 17(2): 53-58	Original Article
100	Shibuya K, Ohara N, Ono S, et al.	むし歯科	Influence of 10-MDP Concentration on the Adhesion and Physical Properties of Self-Adhesive Resin Cements.	Restorative Dentistry & Endodontics. 2019 Nov;44(4):e45	Original Article
101	Yoshida T, Kurosaki Y, Mine A, et al.	クラウンブリッジ補綴科	Fifteen-year survival of resin-bonded vs full-coverage fixed dental prostheses.	Journal of Prosthodontic Research. 2019 Jul;63(3):374-382	Original Article
102	Tosa I, Yamada D, Yasumatsu M, et al.	クラウンブリッジ補綴科	Postnatal Runx2 deletion leads to low bone mass and adipocyte accumulation in mice bone tissues.	Biochem Biophys Res Commun. 2019 Sep;516(4):1229-1233	Original Article
103	Mino T, Kurosaki Y, Maekawa K, et al.	クラウンブリッジ補綴科	Full Digital Workflow for Use of a Scanbody to Accurately Transfer Morphology From Provisional to Final Implant-Supported Fixed Restoration.	J Oral Implantol. 2019 Dec;45(6):494-498	Original Article
104	Maeda N, Kodama N, Manda Y, et al.	咬合・義歯補綴科	Characteristics of Groped Discharge Waveforms Observed in Long-Time Masseter Muscle Electromyographic Recording -A preliminary study.	Acta Med Okayama. 2019 Aug;73(4):357-360	Original Article
105	Tanaka Y, Sugimoto H, Kodama N, et al.	咬合・義歯補綴科	Effects of stage II transport and food bolus sampling methods on the properties of food particles.	J Oral Rehabil. 2020 Feb;47(2):196-203	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
106	Okui T, Ibaragi S, Kawai H, et al.	口腔外科 (病態系)	Solitary Fibrous Tumor Arising in the Buccal Space.	Case Rep Med. 2019 Oct;2019:9459837	Case report
107	Ryumon S, Okui T, Kunisada Y, et al.	口腔外科 (病態系)	Ammonium tetrathiomolybdate enhances the antitumor effect of cisplatin via the suppression of atpase copper transporting beta in head and neck squamous cell carcinoma.	Oncol Rep. 2019 Dec;42(6):2611-2621	Original Article
108	Okui T, Ibaragi S, Fujita M, et al.	口腔外科 (病態系)	A Case of Pleomorphic Adenoma Originating from Accessory Parotid Gland.	Journal of Maxillofacial and Oral Surgery. 2019 May(オン ライン)	Case report
109	Ono K, Okui T, Ibaragi S, et al.	口腔外科 (病態系)	A case of intraoral plasmablastic lymphoma spontaneously regressed after biopsy in HIV-negative patient.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2019 Jul;31(4):280-283	Case report
110	Murase Y, Kishimoto K, Yoshida S, et al.	口腔外科 (病態系)	Surgical resection for advanced bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw associated with fibrous dysplasia: a case report.	J Surg Case Rep. 2020 Mar;2020(3):rjaa061	Case report
111	Miyake S, Higuchi H, Honda- Wakasugi Y, et al.	歯科麻酔科	Locally injected ivabradine inhibits carrageenan-induced pain and inflammatory responses via hyperpolarization-activated cyclic nucleotide-gated (HCN) channels.	Plos one. 2019 May; (オ ンライン)	Original Article
112	Takeda T, Yamamoto H, Suzawa K, et al.	薬剤部	YES1 activation induces acquired resistance to neratinib in HER2- amplified breast and lung cancers.	Cancer Sci. 2020 Mar; 111:849-856	Original Article
113	Tatebe Y, Koyama T, Mikami N, et al.	薬剤部	Hypoglycemia associated with pivalate-conjugated antibiotics in young children: A retrospective study using a medical and pharmacy claims database in Japan.	J Infect Chemother. 2020 Jan;26:86-91	Original Article
114	Makita T, Kanzaki H, Onishi H, et al.	薬剤部	Adefovir dipivoxil-induced fanconi' s syndrome and osteomalacia following multiple bone fractures in a patient with chronic hepatitis B.	Yakugaku Zasshi. 2019 Apr; 139:641-645	Case report

小計9件

合計114件

- (注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容 - 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の人体から取得された試料及び情報等の保管に関する標準業務手順書 - 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の個人情報等の安全管理に関する標準業務手順書 - 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の実施に係わる標準業務手順書 - 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の重篤な有害事象及び不具合発生時の標準業務手順書 - 岡山大学医療系部局における臨床研究の実施に係わる標準業務手順書 - 岡山大学医療系部局における臨床研究審査専門委員会標準業務手順書 - 岡山大学医療系部局における研究者主導臨床研究モニタリング標準業務手順書 - 岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の監査に係わる標準業務手順書 - 岡山大学特定認定再生医療等研究における実施に係る標準業務手順書 - 岡山大学特定認定再生医療等委員会標準業務手順書 - 岡山大学病院特定臨床研究における病院長の標準業務手順書 - 岡山大学臨床研究審査委員会に係わる標準業務手順書 - 岡山大学病院特定臨床研究に関する標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
規定の主な内容 - 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会内規 - 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会標準業務手順書	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回
---------------------------------------	---------

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 5 回
・ 研修の主な内容 ・ 医師、歯科医師等の特定臨床研究を行う者に対する研修会（2 3 回） ・ 特定臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の従業者に対する研修会（1 8 回） ・ 認定臨床研究審査委員会の委員に対する研修会（4 回）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各診療領域における専門医・各学会が認めた認定医の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を研修登録医として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	319 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 文男	総合内科・総合診療科	科長	28 年	内科
岡田 裕之	消化器内科	科長	36 年	
前田 嘉信	血液・腫瘍内科	科長	27 年	内科
木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	科長	37 年	内科
和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長	28 年	内科
伊藤 浩	循環器内科	科長	37 年	
阿部 康二	脳神経内科	科長	41 年	
藤原 俊義	消化管外科	科長	35 年	
八木 孝仁	肝・胆・膵外科	科長	37 年	
豊岡 伸一	呼吸器外科	科長	26 年	外科
土井原 博義	乳腺・内分泌外科	科長	37 年	外科
渡邊 豊彦	泌尿器科	科長	25 年	
笠原 真悟	心臓血管外科 小児心臓血管外科	科長	29 年	
野田 卓男	小児外科	科長	36 年	
尾崎 敏文	整形外科	科長	33 年	
木股 敬裕	形成外科	科長	36 年	
森実 真	皮膚科	科長	20 年	
森實 祐基	眼科	副科長	22 年	科長代理
假谷 伸	耳鼻咽喉科	副科長	28 年	科長代理
山田 了士	精神科神経科	科長	37 年	精神科
伊達 勲	脳神経外科	科長	37 年	
森松 博史	麻酔科蘇生科 集中治療部 周術期管理センター	科長 部長 センター長	26 年	麻酔科
塚原 宏一	小児科	科長	34 年	

	小児血液・腫瘍科				
小林 勝弘	小児神経科	科長	37	年	
岩崎 達雄	小児麻酔科	科長	29	年	麻酔科
増山 寿	産科婦人科	科長	33	年	産婦人科
金澤 右	放射線科	科長	39	年	
中尾 篤典	救急救命科	科長	27	年	救急科
柳井 広之	病理診断科	科長	24	年	
平沢 晃	臨床遺伝子診療科	科長	25	年	産婦人科
鳥井 康弘	総合歯科	科長	38	年	歯科
吉山 昌宏	むし歯科	科長	36	年	歯科
高柴 正悟	歯周科	科長	32	年	歯科
窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	科長	34	年	歯科
皆木 省吾	咬合・義歯補綴科	科長	42	年	歯科
飯田 征二	口腔外科（再建系）	科長	34	年	口腔外科
佐々木 朗	口腔外科（病態系）	科長	39	年	口腔外科
浅海 淳一	歯科放射線・口腔診断科	科長	36	年	歯科
宮脇 卓也	歯科麻酔科	科長	32	年	歯科
上岡 寛	矯正歯科	科長	31	年	
森田 学	予防歯科	科長	34	年	歯科
仲野 道代	小児歯科	科長	27	年	
千田 益生	総合リハビリテーション部	部長	37	年	リハビリテーション科
曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	部長	21	年	歯科
江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	センター長	32	年	歯科

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか、外部機関が主催する研修会等に参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署、チーム等において、多職種の連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域等に関する症例検討、勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 金澤 右
管理担当者氏名	医療情報部長 郷原 英夫, 放射線部長 金澤 右, 医療安全管理部長・感染制御部長・医療機器安全管理室長 塚原 宏一, 薬剤部長 千堂 年昭, 看護部長 宗宮 昌子, 総務課長 木村 勝弘, 医事課長 浜家 隆, 各科診療科長・中央診療施設長

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科, 中央診療施設
		処方せん	薬剤部
		手術記録	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		看護記録	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		検査所見記録	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設, 医療情報部, 医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	企画・広報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	掲 規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理室
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理室		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理室 医療安全管理部		

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課、医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課、医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人監査室
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・企画部総務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・企画部総務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 金澤 右		
閲覧担当者氏名	企画・広報課長 早川 みどり、医事課長 浜家 隆		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3 階		
閲覧の手続の概要			
閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続を行う。			
① 開示請求の受付			
② 開示等の検討			
③ 開示等の決定・通知			
④ 開示の実施			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
・ 指針の主な内容： ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療安全管理のための委員会・医療安全管理責任者の配置 ・ 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 医療安全管理部 ・ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品・医療機器等についての安全管理 ・ 内部通報窓口の設置 ・ 外部監査の実施 ・ 特定機能病院間におけるピアレビュー ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築、事故防止への包括的アプローチの必要性）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有 無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容：次の各事項を審議する。 ・ 病院における医療安全管理に関する重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること ・ 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること ・ 定期的な事故防止対策に関する調査及び方策の見直しに関すること ・ 入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況に関すること ・ 入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の事実及び発生前の状況の報告の実施状況に関すること ・ 入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合について、実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための研修及び指導に関すること ・ その他医療安全に関すること	年3回
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 心肺蘇生法・岡山大学病院医療に係る安全管理体制（全職員対象共通内容） 2) 診療関連の訴訟を担当する弁護士から病院に期待すること（感染制御部と合同研修、全職員対象共通内容） 3) 岡山大学病院 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症対応・岡山大学病院のRS導入に向けての取り組み（全職員対象共通内容）	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ マニュアルの整備
 - ・ インシデントレポートシステム
 - ・ リスクマネジャーの配置
 - ・ 医療安全管理委員会の設置
 - ・ 医療事故等調査委員会
 - ・ 医療安全管理者の巡視による改善策実施状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 委員会について 3) 感染制御部の業務内容 4) 院内感染対策のための職員教育及び研修 5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針 7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 9) 他施設との感染対策と地域連携に関する基本方針 10) 一種感染症指定病院としての基本方針 11) 一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症により入院する患者の権利等	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 4 8 回
・ 活動の主な内容： ・ 感染予防対策委員会 1回／月 合計12回 ・ リスクマネージャー会議（この中でICT全体会議と医療安全会議を行う） 1回／月 合計12回 ・ 感染制御部職員会議 1回／月 合計12回 以上3委員会は、それぞれ連携して以下の活動をする。 ① 耐性菌サーベイランス、侵襲的処置別感染症サーベイランス ② 感染予防対策立案と指導、マニュアルの管理 ③ 抗菌薬使用の管理 ④ ICT（リスクマネージャーがICTメンバーを兼ねる）との連携 ⑤ 重症感染症、特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション ⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営 ⑦ 針刺し、体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導 ⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核、流行性疾患など） ⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導、環境整備に関する管理と指導 ⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与 ・ 看護部感染対策委員会 1回／月 合計12回 - 手指衛生のコンプライアンスの測定と改善 - 感染防止の視点からの看護手順の作成 - 環境整備の状況把握と指導	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 1 8 回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 全職員対象院内感染対策講習会 4回／年（各会1回、②は医療安全研修会と合同開催） ① 針刺し事故防止、肝炎スクリーニング検査の近況、結核の院内感染予防とトリアージ診療、アンチバイオグラムについて、スタンダードプリコーション ② 診療関連の訴訟を担当する弁護士から病院に期待すること ③ 抗菌薬の適正使用、当院における血液培養の採取セット率、一類感染症患者が入院する場合の個人防護具着用訓練（一部実技訓練） ④ 新型コロナウイルス感染症（nCoV2019）、サージカルマスクの外し方、手指衛生について 2) 新規採用者研修 1回 3) 主に看護師対象感染防止技術研修会 11回 （内容）感染予防対策に関する基本的な事項、Device関連の感染予防策、流行性疾患対策など 4) 看護補助者に対する研修会 1回 標準予防策 講義 5) 委託業者（清掃業者）に対する研修会 1回 針刺し予防・標準予防策・ノロウイルス対策	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ☐ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 感染予防対策委員会，リスクマネージャー会議，病院連絡協議会，看護部感染対策委員会，看護師長会などを通じて毎月重要な情報伝達と周知を行っている。
 - ・ 感染制御部NEWSを1回／2ヶ月のペースで配信し，流行している疾患の情報や新規作成または改訂したマニュアルの情報提供を行っている。また，随時，所属長宛にその都度メール配信して注意喚起や情報提供を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3回
・ 研修の主な内容： 平成31年 4月 新規採用職員オリエンテーション－医療事故防止について(薬剤部)－ 令和元年 5月 麻薬の適正な取扱いについて 令和2年 1月 抗菌薬の適正使用	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・ 手順書の作成 (有 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 医薬品の採用・購入・管理に関すること ・ 病棟・各部門への医薬品の供給に関すること ・ 患者への医薬品の使用に関すること ・ 病棟等における医薬品の管理に関すること ・ 医薬品情報の収集・管理・周知に関すること ・ 他施設との連携に関すること ・ 放射性医薬品に関すること ・ 院内製剤に関すること ・ 重大な有害事象の予防および対応に関する(事故発生時の対応, 教育・研修) ・ 医薬品関連の情報システムの利用に関すること 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に基づく業務実施状況については、担当部署ごとに「業務チェックリスト」を作成している。 医薬品安全管理責任者は、定期的(月1回)に業務チェックリストを確認し、手順書に基づく業務実施状況を把握している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： Roaccutan (13-シスレチノイン酸)：進展性神経細胞腫 LOX0-195：NTRK融合遺伝子をもったグリア神経細胞腫瘍 リムパーザ：再発性卵巣がん, BRCA遺伝子変異陽性の卵巣がん, 切除不能腭神経内分泌腫瘍 レンビマ：腺様嚢胞がん ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) カリウム注射剤のマニュアルの作成 院内のカリウム製剤投与に関するマニュアルを作成した。 高濃度カリウムの投与については、対象部署および投与患者の限定, 投与方法, モニタリング基準等の運用を定め、院内のカリウム製剤投与に関するマニュアルに明記した。	

(2) 造影剤の有害反応事例情報の一元管理

医薬品安全管理責任者による造影剤に関連するアレルギーおよび副作用情報の一元的把握体制を診療情報管理室および電子カルテシステムを活用する体制を構築した。

(3) 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂

厚生労働省医政局総務課医療安全推進室並びに厚生労働省医薬・生活衛生局総務課から通知された「医薬品の安全使用のための業務手順書作成マニュアルの改訂について」（平成30年12月28日付）に基づき、院内の「医薬品安全使用のための業務手順書」の全面改訂を行った。

(4) 医薬品安全管理責任者による病棟常備薬管理状況の確認体制の構築

病棟における法的規制薬品（麻薬、向精神薬等）の適正管理の強化を目的として、医薬品安全管理責任者および麻薬管理者等による病棟ラウンドの運用体制を構築した。

(5) 医療安全管理部と協働した医療安全対策

（主な取組み）

- ・ 注射ラベルへの生年月日の表記の設定。（患者認証時の情報として生年月日を注射ラベルに印字）
- ・ 分包紙（散薬および一包化）への生年月日の表示
- ・ 医薬品の過量投与防止対策（添付文書上に用量の上限が設定されている薬剤についてはマスタ上に上限設定を追加した）
- ・ メトトレキサート製剤の誤選択防止に向けた対策（アラート表記）
- ・ 全病棟看護師に対するカリウム製剤の取扱いに関する研修

(6) その他

- ・ 薬品情報室では、医薬品の適正使用等に関連する情報を院内情報誌（DI-News）に掲載し、各診療科ならびに中央診療部門等に情報提供している。（昨年度：12報）
- ・ 医薬品の安全管理および適正使用に影響度が高い「プレアポイド報告」を医薬品の安全使用に対する警鐘事例としてリスクマネジャー会議で報告している。（昨年度：12例）
- ・ 薬剤師が調剤および病棟業務を実施する中で、医薬品による有害反応の重篤化の回避、未然回避、さらには薬物治療効果の向上に貢献した事例および発生状況を分析し、その内容を医療安全管理委員会で報告し、院内で情報共有している。（昨年度：12回）
- ・ 薬剤部内で発生したインシデント事例については、薬剤部内のリスクWGにて事例検討を行い、対応策の検討および部員への周知を行っている。（昨年度：12回開催）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年120回
- 研修の主な内容： - 定期研修 - MR I 装置の安全性 - 放射線治療装置の安全管理 - R A L S 緊急時マニュアル - マイクロセレクトロンHDR-V2の安全性 - 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講(学会主催のもの) - 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について - 血液浄化装置：同 上 - 除細動装置：同 上 - 閉鎖式保育器：同 上 - 注入ポンプ（PCAポンプ）：同 上 - 新しい医療機器導入時の研修 - SmartGene操作説明会 - ESAnalyzer操作説明会 - SOMATOM GO Top の新規導入説明会 - Syngo. via の新規導入説明会 - 血液浄化装置試用による新規導入時研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定 (有・無) - 機器ごとの保守点検の主な内容： - X線装置：定期点検(機種により年1～4回)，使用前点検 - 診療用放射線照射装置：定期点検(年1回) - 人工心肺装置：定期点検(年1回)，日常点検(始業点検/終業点検) - 人工呼吸器：定期点検(年2回)，使用前点検 - 血液浄化装置：定期点検(年2回)，使用前点検，透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定，細菌培養(毎月) - 除細動装置：定期点検(年2回) - 閉鎖式保育器：定期点検(年2回)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) - PMDAより情報収集 - メーカー、業者からの報告 - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： - その他の改善のための方策の主な内容： - 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集 - 全国国立大学法人 放射線診療部門会議 医療安全委員会 NEWSLETTERからの情報収集 - 加温加湿器と加湿用水の落差不足による加湿不十分への対応 - 低圧持続吸引器ドレーンタンク内チューブ外れ事例への対応	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として、医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理者の各業務について確認を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内における医薬品の使用状況、院内におけるインシデント情報、医薬品に対する問い合わせ情報、さらにはPMDA等からの医薬品情報については薬剤部の薬品情報室が情報収集を行っている。 薬品情報室が得た情報については、院内情報誌（DI ニュース）として情報を整理し、院内の全部署へ情報発信を行っている。 また、イエローレターやブルーレターのように特に重篤な情報については、薬剤部門システムをもちいて当該医薬品の処方医を選定し、処方医個別に情報提供を行っている。 医薬品に関する情報の周知の状況の確認は、薬剤部から情報発信する際、“医薬品情報に関する確認書”を添付し、それを用いて院内の周知状況を確認している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品の使用状況の把握については、調剤時または病棟薬剤業務等の業務を遂行する中でその情報の収集に努めている。 薬剤師が未承認薬等の使用を把握した際は、処方医に対して未承認薬等の使用であることの情報提供、処方の必要性、有害反応の発現性、さらに処方の妥当性について処方医に確認を行う。 また、薬剤師が把握した未承認薬等の使用情報については薬剤部内で一元管理を行い、その情報は定期的に医療安全管理責任者へ報告している。 ・担当者の指名の有無 有・無 ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長）	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (④・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームド・コンセントに係る責任者は、副病院長（診療（医科）担当）をもって充てる。定期的にインフォームド・コンセントの実施状況を確認し、必要に応じて診療科長等会議において、報告及び指導等を行う。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	⑤・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 監査については、昨年度までは「診療記録の監査に関する小委員会」の委員で実施し、小委員会にて診療録等の記載内容の監査結果を報告し、さらに必要に応じて診療科長等会議において記載方法及び内容の報告を行っていた。また、診療・看護ワーキング委員にも同様の監査を実施した。 今年度については、岡山大学病院における診療記録の多職種による監査の運用に関する申合せの規定に基づいて、診療記録管理委員会に承認された、多職種監査チームによる監査を実施している。診療情報管理室では退院1週間後を目途に退院患者全体に対して量的監査（入院診療計画書、手術記録、退院時要約など）を実施している。加えて、質的監査も多職種監査とは別に、項目数を増やしたものを実施している。監査結果については「診療記録の監査に関する小委員会」で報告、小委員会の委員長より診療科長等会議にて院内周知を行っている。 主な指導内容としては、退院時要約の記載について、不備のない同意書の記載について、不備のない入院診療計画書の記載について、経過記録への記載についてなど。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	⑥・無
・所属職員：専従（5）名、専任（1）名、兼任（25）名 うち医師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（12）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 病院全体の医療安全対策に関する計画立案や評価・改善・医療安全に関する職員の意識向上や指導などの活動を行う。 1. インシデントレポートの集計、分析及びフィードバック並びに再発防止策の立案及び提出などのインシデントの再発防止に関すること。	

2. 医療安全管理に関するマニュアルの作成及びガイドラインの策定に関すること。

3. 職場の安全点検活動及びモニタリングに関すること。

(死亡・死産事例、画像診断における緊急対応事例と検査目的外の所見に対する診療内容、患者誤認に関する部署内検討会の実施状況、急変患者のモニタリング、救急カートの点検・整備)

4. インシデント発生後の対応及び調整などに関すること。(患者・家族への対応も含む。)

5. 医療安全に関する教育、啓発及び広報などに関すること。

6. 全国医療安全管理協議会に関連した情報交換業務及び全国的調査に関すること。

7. 薬剤・医療機器メーカー及び行政への提言に関すること。

8. 全死亡症例の把握

9. その他・各種委員会、ワーキングメンバーとしての活動

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(4件)、及び許可件数(4件)

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(有・無)

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(有・無)

・活動の主な内容:

高難度新規医療技術の提供の適否等の決定。評価委員会への諮問。診療科等との調整。適用症例の事後検証、評価委員会の設置・運営

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無(有・無)

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無(有・無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(55件)、及び許可件数(55件)

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無(有・無)

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(有・無)

・活動の主な内容:

未承認新規医薬品等の使用条件及び使用の適否等の決定。評価委員会への諮問。診療科等との調整。使用症例の事後検証、評価委員会の設置・運営

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (☒ ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (☒ ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 151 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 55 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療事故の防止及び対策、医療事故防止マニュアルの作成、医療事故防止の教育・研修、及び警鐘事例周知、インシデントレポート件数の把握、3b 以上の把握等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (☒ (病院名：和歌山県立医科大学附属病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (☒ (病院名：大阪大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況

10月2日の特定機能病院相互のピアレビュー講評を受けて、高難度新規医療技術の申請について、実施体制に大きな変更があった際には一度承認されていても再申請してもらうことについての確認等がなされた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

初期対応窓口の総合患者支援センターとの連携について運用マニュアルを整備し、安全管理・医療事故に関することの相談専門窓口は医療安全管理部であることや、相談の流れをフロー図として明記している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

令和元年度は、平成31年4月2日に新規採用職員オリエンテーション「医療事故防止について等」について研修を実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者，医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修
の実施状況

・研修の実施状況

2019 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）を
下記の日程で受講した。

管理者（金澤 右）：2020 年 2 月 12 日（水）

医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者（塚原 宏一）：2020 年 1 月 7 日（火）

医薬品安全管理責任者（千堂 年昭）：2020 年 2 月 12 日（水）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1
日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容
 - 人格が高潔で、学識が優れ、教育及び医療に関し高い見識を有すること
 - リーダーシップを発揮し、本学の運営方針に基づき、病院運営にあたる者として、学長と基本的な方向性を共有していること
 - 医療法その他関係法令に基づく管理者として求められる能力及び経験を有する者であること
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 公表の方法
 - 大学ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無

有 ・ ☒ 無

- ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
・合議体の主要な審議内容 合議体として、診療科長等会議を設置しており、病院長の諮問に応じて次の事項について審議を行う。 ・ 病院の運営の方針に関する事項 ・ 病院の中期計画に関する事項 ・ 病院の予算編成及び決算に関する事項 ・ その他病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ・ 合議体（診療科長等会議）の構成員である診療科長等から、所属診療科内へ周知 ・ 医局長等を構成員とする病院連絡協議会において、合議体（診療科長等会議）の審議の概要を報告 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
金澤 右	○	医師	病院長, 診療科長, 教授
大塚 文男		医師	副病院長, 診療科長, 教授
増山 寿		医師	副病院長, 診療科長, 教授
宮脇 卓也		歯科医師	副病院長, 診療科長, 教授
豊岡 伸一		医師	副病院長, 診療科長, 教授
前田 嘉信		医師	副病院長, 診療科長, 教授
柳 文修		歯科医師	副病院長, 診療科長, 教授
塚原 宏一		医師	副病院長, 診療科長, 教授
宗宮 昌子		看護師	副病院長, 診療科長, 看護部長
岡田 裕之		医師	診療科長, 教授
木浦 勝行		医師	診療科長, 教授

和田 淳		医師	診療科長，教授
伊藤 浩		医師	診療科長，教授
阿部 康二		医師	診療科長，教授
草野 展周		医師	診療科長，教授
藤原 俊義		医師	診療科長，教授
八木 孝仁		医師	診療科長，教授
土井原 博義		医師	診療科長，教授
渡邊 豊彦		医師	診療科長，准教授
笠原 真悟		医師	診療科長，教授
野田 卓男		医師	診療科長，教授
尾崎 敏文		医師	診療科長，教授
木股 敬裕		医師	診療科長，教授
森実 真		医師	診療科長，教授
山田 了士		医師	診療科長，教授
伊達 勲		医師	診療科長，教授
森松 博史		医師	診療科長，教授
大月 審一		医師	診療科長，教授
小林 勝弘		医師	診療科長，教授
岩崎 達雄		医師	診療科長，教授
松井 裕輔		医師	診療科長，講師
岡田 あゆみ		医師	診療科長，准教授
中尾 篤典		医師	診療科長，教授
柳井 広之		医師	診療科長，教授
田端 雅弘		医師	診療科長，教授
平沢 晃		医師	診療科長，教授
鳥井 康弘		歯科医師	診療科長，教授
吉山 昌宏		歯科医師	診療科長，教授
高柴 正悟		歯科医師	診療科長，教授
窪木 拓男		歯科医師	診療科長，教授
皆木 省吾		歯科医師	診療科長，教授
飯田 征二		歯科医師	診療科長，教授

佐々木 朗		歯科医師	診療科長，教授
浅海 淳一		歯科医師	診療科長，教授
上岡 寛		歯科医師	診療科長，教授
森田 学		歯科医師	診療科長，教授
仲野 道代		歯科医師	診療科長，教授
千田 益生		医師	部長，教授
吉野 正		医師	部長，教授
曾我 賢彦		歯科医師	部長，准教授
稲垣 兼一		医師	センター長，准教授
難波 祐三郎		医師	センター長，教授
平岡 佐規子		医師	センター長，准教授
西田 圭一郎		医師	センター長，准教授
江草 正彦		歯科医師	センター長，教授
郷原 英夫		医師	部長，教授
千堂 年昭		薬剤師	部長，教授
四方 賢一		医師	教授
王 英正		医師	教授
渡部 昌実		医師	教授
堀田 勝幸		医師	教授
片岡 仁美		医師	センター長，教授
岡田 健		臨床検査技師	医療技術部長
徳山 久丈		事務	部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法
大学のホームページにて公表
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 病院長は、病院の管理及び運営に必要な人事（岡山大学長が任命権を有するものを除く。）及び予算執行権限を有する。
 - (2) 病院長は、病院の運営の方針、中期計画、予算編成、決算及びその他の病院の運営に関する重要な事項については、診療科長等会議の議を経て決定する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長を助け、病院長の職務を円滑に遂行させるため、それぞれ以下の業務を分担している。
 - (1) 総務・企画運営担当
 - (2) 診療（医科）担当
 - (3) 診療（歯科）担当
 - (4) 教育（医科）担当
 - (5) 研究（医科）担当
 - (6) 教育・研究（歯科）担当
 - (7) 医療安全管理担当
 - (8) 看護・患者サービス担当また、病院長、副病院長に医療情報部長、看護部長、事務部長等で組織された経営戦略会議において病院の経営戦略（企画・分析）に関する事項等について検討・協議を行っている。
なお広報については、事務部に企画・広報課を置き対応している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - (1) 病院長の職務を円滑に遂行させるため、副病院長を複数名置き、それぞれ管理運営に関する業務を分担している。
 - (2) 特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）に病院長、副病院長（医療安全管理担当）及び医薬品安全管理責任者が参加している。
 - (3) 国立大学附属病院長会議が行っている病院経営次世代リーダー養成塾に副病院長が参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	有・無
・ 監査委員会の開催状況：年2回（令和2年度第1回委員会を令和2年9月11日に実施、第2回委員会を令和3年2月2日に実施予定） ・ 活動の主な内容： ○病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査について審議する。 ○安全管理状況及び改善状況について審議する。 ○病院の業務状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。 ○審議の結果に基づき、学長及び病院長に是正措置を講じるよう意見を提出する。 ○審議の結果及び監査意見を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： ホームページに掲載	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会 (会長)	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
長谷川 威	長谷川威法律事務所 (弁護士)		法律に関する識見を有するため	有・無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学 (名誉教授)		医療を受ける者の代表者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人岡山大学内部統制規則に基づき、業務の有効性及び効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、事業活動に係る法令等遵守の促進並びに資産の保全を図るため、当該組織及び所掌する業務における内部統制の整備及び運用状況について、内部統制委員会に定期的に報告を行うこととしている。内部統制委員会では、報告に基づき、是正措置を講じた内容等について、必要に応じて当該措置の妥当性の検証を行っている。

・ 専門部署の設置の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

・ 公表の方法

大学ホームページにて公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法（平成15年法律第112号）の規定に基づき、経営協議会を設置し、中期計画及び年次計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの並びに予算の作成、執行及び決算に関する事項として病院を含めた法人の経営に関する事項を審議している。 その他に大学内に病院の管理者を含めた大学の役員等を構成員とした大学経営戦略会議を設置し、病院の経営状態を報告している。 ・ 会議体の実施状況（経営協議会 年 5回 大学経営戦略会議 年47回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ） （経営協議会 年 5回 大学経営戦略会議 年47回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 経営協議会について、会議の規程、委員名簿及び議事要旨を、大学ホームページにて公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人岡山大学経営協議会 国立大学法人岡山大学大学経営戦略会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- ・ 通報件数 年 1 件
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)
- ・ 周知の方法
 - ホームページに掲載
 - 医療安全ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院 3） 令和元年 1 1 月受審 令和 2 年 6 月条件付認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・ホームページ及び定例記者発表等を通じての情報発信 ・市民等を対象とした公開講座等の開催 ・病院HPにおいて診療体制や診療データ等について情報発信をしている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・診療科等の連携によるセンターの設置 ・複数の診療科で構成する中央診療施設の設置	